象潟は島々の間を耕せり

《一九九四年》

〝象潟〟誇風光、
蕉翁亦従此地過、
耕在島嶼間。

。

多羅の芽の谷重ねたり羽黒山

早春〝羽黒山〟、
山岭山谷重重迭、
多羅樹萌芽。

はしやぐごと蜂に驚きシャネルの香

驚撥蜂来涯、
騒擾如歓得很姿、
〝香奈尓〟薫吹。

香水や映画は愛を昂らす

香水撲鼻来。
電影院里愛情高、
観客受刺激。

秋の夜のオペラの熱さ抱きて帰る

鑑賞歌劇後、
熱情抱回家。

コニャックを手に松島は月に泛き

満盃〝科涅克〟、
松島泛月潮。

喰積の漆器にしのぶ母の意気

《一九九六年》

漆器盛年飯、
回想母入魂。

成人の日のみ華やぎ職狭し

年年着盛装、
青年男女成人日、
就業路狭窄。

テニヲハを残し外人卒業す

日語助詞未掌握、
大学畢業外国人。

夕顔や踏切上がり未知の町

路辺瓠子花開夕、
道口過后陌生街。

東北大学

魯迅医を捨てし教室秋のこゑ

教室階梯斜、
〝魯迅〟離医志作家、
秋聲似旧涯。

于東北大学

星飛べり木乃伊も人も寝し村を

星流一線天、
木乃伊郷人共眠、
萬物夢相牽。

ジャワ更紗暖簾の疲れ半夏生

門楣有花鳥、
〃瓜哇〃印花布爲簾、
夏半已漸疲。

桜鯛心の隅にある小骨

盤上珠斑鯛、
我心亦有小刺骨、
味美櫻花時。

陽炎ひて人針となるジャコメッティ

〝吉亜柯梅蒂〟、
春気縷縷陽炎揺、
人細如鉄線。

○

木下闇深紅のジャガー沈めたり

樹下陰暗處、
紅色汽車濃緑蔭。
其名〝美州豹〟。

力むなよ大根の列肩を出す

無須用力気、
蘿卜皆露肩。

時雨去る比良より低く虹残し

晩秋軽雨蕭蕭去、
彩虹低于比良山。

豆腐掌に泳がせて売る寒の水

捧出冷水中、
手上豆腐猶顫動、
顧客笑融融。

半迦思惟思惟なき衆に暖し

半迦思惟姿、
欲救衆人無思惟、
和顔暖人心。

美容費も調べて秋の留学へ

女心成績嘉、
美容費用也要査、
今秋留学去。

担送車仰臥せしまま百合を過ぐ

清香百合花、
花下駛過担架車、
仰臥斜看花。

霾るや寸土洩らさぬ資産税

黄塵天陰霾。
無盡辛酸資産税、
寸土不放過。

木の芽道犬の時間の人に遇ふ

街路樹萌芽、
人随犬行正此時！
邂逅両驚訝。

鬼神ヲ敬シテ之ヲ遠ザク終戦忌

終戦記念日、
懐〝敬鬼神而遠之〟、
叡智学仲尼。

テレビに見る出水汎々の輩となり

電視看洪水。
忽也我成汎汎輩、
越堤向東流。

了